

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170103010		
法人名	社会福祉法人 高佳会		
事業所名	長森いきいき倶楽部		
所在地	岐阜市前一色西町4-6		
自己評価作成日	令和1年12月4日	評価結果市町村受理日	令和2年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kairgokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2170103010-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和1年12月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物は、間接照明や信楽焼きの浴槽などにより、落ち着けるような雰囲気作りをしています。居室には利用者様それぞれの好みや身体状況に合わせ、ご家庭で使い慣れた家具をお持ちいただいております。

サービスは、竹内式認知症ケアを日常のケアの中で実践をしており、利用者様にご満足頂ける様日々努めております。個別ケアを心掛け、ゲスト様・ご家族様の意思の尊重するように日々のサービス提供をしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所近辺は田畑も多いが、すぐ近くに図書館や消防署、県の総合医療センター等があり、利便性のある暮らしやすい環境の中にある。職員の介護経験年数に差はあるが、利用者支援には幅のある対応ができ、家庭的で温かな雰囲気がある。減少していた外出支援は家族の協力を得て、徐々に増えている。浴室には、心身共にリラックスしながら温泉気分を味わうことが出来る信楽焼の浴槽がある。管理者は、職員一人ひとりの潜在能力を活かし、それぞれが得意な分野で利用者の暮らしを支援できるよう、職場環境を整えている。職員もまた、利用者が生き生きと笑顔で暮らせるよう個別支援にも取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は、管理者、職員の共同の理念とし、毎朝の朝礼にて復唱している。	職員は、毎日、朝礼時に理念を復唱し、その意義を確認している。利用者が住み慣れた地域の中で、社会や住民と関わりながら、穏やかに満足感のある暮らしが出来るよう支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員は出勤時や退勤時、ご近所の方とすれ違う時には挨拶をかわし、散歩時の時にもご利用者様と一緒に挨拶をしている。毎月2回～3回、地域清掃の日と設定し、施設周辺のおゴミ拾いをご利用者様と一緒にやっている。	事業所は自治会に加入し、積極的に町内行事や防災訓練、清掃活動等に参加している。近隣の幼稚園児と交流したり、地元のボランティア団体の定期訪問時には習字やフラダンスを楽しんでいる。近隣住民とは日常的に挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	防災訓練の参加。コミュニティを利用し作品の掲示。ボランティアの受け入れをしている。地区の清掃活動への参加。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にご利用者様ご本人やご家族様が参加されている。ご利用者様の様子や今後の取り組みをご報告し、意見をお聞きして向上に活かしている。ご利用者様からも意見をお聞きしている。	運営推進会議では、事業所の活動や利用者状況を報告し、意見を交わしている。災害対策や看取り介護、職員の勤務状態についても話し合い、出された意見を運営に反映させている。参加者が少なく、メンバーの拡大が課題となっている。	運営推進会議は、地域住民や複数の利用者家族の参加を得ての開催が望まれる。認知症カフェ立ち上げについても、地域貢献の一端を担いたいとの管理者の思いが実現する事にも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を始め、事業で行われた実績等常に報告している。	担当者に事業所の取り組みや課題を報告し、理解を得ている。地域包括支援センター職員とは、空室情報や身体拘束の問題などについて相談し、助言を得ている。書類や議事録提出の際には、行政窓口に出向き、情報交換をしながら協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご利用者様の動きに制限を設ける事は認知症の進行に繋がる事を認識し、家庭的な環境の中で見守りが出来ている。中庭、南庭には、センサーをが設置されているため、自由な行動に対し、対応出来ている。	月1回のケアカンファレンス会議の中で、身体拘束防止や不適切ケアと虐待について、話し合っている。利用者の安全の為、やむを得ない場合のみ、家族の同意を得て、一時的に対応を行う場合もある。拘束による弊害、言葉による拘束についても学び、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	安全を確認しつつ、自由な暮らしを支援する工夫をしている。研修会に参加し虐待防止を学び、言葉かけにも職員間で注意を図っている。		

岐阜県 グループホーム長森いきいき倶楽部

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居時、身元引受人(成年後見人制度)の質問を受け、制度がある事を説明しご安心頂いている。成年後見人制度を利用されている方がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約時、契約書と重要事項説明書に沿って十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時は、ご家族様からのご意見、ご要望を聞き、また、意見箱を設置し苦情を頂いた際には、都度ミーティングを行い、改善点を書面化し、周知、実施している。	面会時に、家族からの一言メッセージをもらったり、家族会や介護計画作成時に意見や要望を聴いている。毎月の便りには、利用者の写真と共に、日頃の暮らしぶりや身体状況を記述し、郵送している。散歩や運動の希望があり、それらの意見を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議、カンファレンス会議、又、必要に応じ、リーダー会議、全体会議を設け意見交換をしている。随時、意見、報告や提案できるようにしている。	管理者の理解の下、職員主導の職員会議を開き、多くの提案が出されている。畑の野菜作り、家族へ送る手書きの便り、浴衣で夏祭りに参加する等が実現している。管理者は、人手不足の中でも、資格取得のための講習会や職員研修を奨励している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談を随時行い、相談をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎日の朝礼や日々の申し送りで各自、その日に連絡、報告し、迅速に解決している。研修会へも、必要性、要望があれば出向いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本部への連絡を密にし、経験や実績のある上司からアドバイスを受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、管理者・ケアマネージャー・リーダーがご本人やご家族様に直にアセスメントし生活歴や介護での意向をお聞きしケアプランに取り入れ、安心・安全に過ごして頂けるよう環境作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者・ケアマネージャー・リーダーがアセスメントを実施し、ご家族様より要望を伺い安心して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設入居にあたり、何を希望しどのような事を期待されているのか、心配・不安は何か、見極められるように心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や食事・掃除など日常生活、特に家事を中心に「共に過ごして助け合う」事を重要としている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と常に連絡を取り合い外出(食事・喫茶店・買い物・墓参り)外泊等、ご本人様とご家族様の絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	喫茶店へ行くことが習慣だった方はご家族と近隣の喫茶店へ行き、庭いじりが趣味だった方は庭にて草花を育ててくださるなど、今までの生活を維持できるよう支援している。	家族や親戚と共に墓参りや食事に出かけたり、昔の友人と一緒に喫茶店に行く利用者もある。また、職員と共に図書館に行ったり、食材の買い出し、地域のイベントに出かけるなど、馴染みの人に会える機会を作り、支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	介護度の違うご利用者様が出来る事をお互いに助け合えること。介護度が違う事からトラブルが起きないように、また、孤立される事のないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	老健等に移られたゲスト様から、再度申し込みや、退居後ご家族様から相談がありましたら、対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフ全員が一人ひとりの思いや希望について関心を持ち、情報を共有している。入浴時間や食事場所とう、ご本人様と相談を行いケアにつなげている。サービス担当者会議にもご本人様が参加し、思いをお話して頂いている。	利用者一人ひとりの思いや意向を、毎日の暮らしの中で聞きながら、把握に努めている。意思疎通が難しい場合でも、表情やしぐさなどから読み取り、その人らしく暮らせるように支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅で馴染みとされていた家具や布団を持参して頂き、在宅での生活状況との変化を少なくして頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝礼時に前日から夜間帯の申し送りにて情報の共有、毎朝バイタルを計一人ひとりの状況を把握している。入浴時にはプライバシーを守りつつ会話しながら身体の皮膚の状態を観察している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族来館時等の要望やゲストの気持を毎月のサービス担当者会議や計画作成に活かしている。またモニタリングを行い、新たな計画へ展開できるよう努めている。	サービス担当者会議には利用者も参加し、家族からの意見も参考にしながら、達成可能な目標を含めた計画作りを行っている。個々の計画に沿った運動や外出、家事、趣味など、モニタリングを行いながら記録に残し、次回の介護計画に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には、ゲスト様の様子や過ごし方を記録して、身近に支えるスタッフがわかる事実や気づきを記録に残している。毎月担当職員がモニターリング記録して介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ゲスト様やご家族様の要望にあわせて歯科往診やマッサージの手配をいたしております。		

岐阜県 グループホーム長森いきいき倶楽部

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパーやコンビニ、ドライブに出かけたり、コミュニティセンターを活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携しているサンライズクリニックをご家族様に紹介したり、ご家族様の希望で、ご家族様がお連れして、かかりつけ医の受診をして頂いて降ります	これまでのかかりつけ医を継続する人は、家族が同行して受診している。月2回、協力医の往診があり、歯科医師の往診もある。また、同法人の訪問看護サービスとも連携しながら、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問看護師によるゲスト様のバイタルと状態の把握によりドクターに報告し適切な看護を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療連携をしているはしもと内科の紹介の病院に受け入れて頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族と相談し、理解を得ながら、提携医・訪問看護師との連携をしてターミナルケアを行う。ユニット内でも研修を行う。	契約時に、重度化や看取りについての指針を家族に説明するとともに、特別養護老人ホームへの入所申請を依頼している。段階ごとに医師を含めて関係者で話し合い、方針を共有している。一定条件の下で、看取り対応が可能な支援体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを元に、全体会議にて新人スタッフへ周知徹底している。消防署の職員より普通救命講習を全職員が受講し、終了証書を取得している(平成23年3月22日時点)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施、災害時に備えている。非常時の食料や飲料水は備蓄しており、定期的に確認。運営推進会同時開催時には地域の代表者に参加いただく。災害時連絡先には地域にも自動で入るよう協力を得ている。	災害訓練は、消防署の協力の下、夜間も想定しながら、初期消火・避難誘導などを実施している。災害時においては、近隣住民や法人事業所との協力体制がある。近年は大雨による河川氾濫が起こった事例もあり、避難経路や備蓄の見直しなど、検討課題について運営推進会議で話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の既往歴を把握し、言葉かけを大切にしている。誇りやプライバシーについても尊厳を持った接し方に心掛けている。	利用者の生活歴やこだわりなどを考慮しながら、自己決定ができるよう言葉かけを工夫している。本人が希望する服装や整容ができるよう手助けする際にも、尊厳や誇りを損ねないよう心がけ、トイレや入浴時には、特に羞恥心に配慮して支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	問いかけや疑問形で声掛けをしている。表情や動きから思いを察し、自己決定ができるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の要望をお聞きし、予定を一緒に立てている。管理者やケアマネは定期的に現場へ入り、ゲスト様が望んでいる支援が出来るかリーダーと共に考えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度美容室の来館があり、要望に応じてカット・カラー・パーマを行う。洋服は要望を聞き選んでいただく。アクセサリやスカーフを用い楽しまれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みに合った食事が出来るようメニューの確認、準備、食事、後方付け等と一緒にやっている。行事や祭日にはおめでたい一品を添えている。お誕生日には食べたい物をお出している。	利用者は、食材の買い出しや下ごしらえ、食器洗いなど、自分が出来ることに関わっている。献立の品書きは利用者が担っている。職員と利用者が同じものを食べ、昔の思い出や好きな食べ物について話しながら、楽しい時間を共有している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は1日1500～1800cc 野菜を多くしたバランスの取れたメニューを作成している。たんぱく質を重視し、血液検査の結果を元に思案している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っている。ご本人様に合った介助を行っている。		

岐阜県 グループホーム長森いきいき倶楽部

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表などから排泄パターンを読みとり、排泄管理を行う。前もっての声かけや誘導で日中は布パンツを使用する方が増している。夜間も声かけや誘導で紙パンツから布パンツに移行している。	個々の身体状況や排泄パターンに合わせて、声かけとトイレ誘導を行っている。日中は布パンツの利用者も多く、排泄の爽快感を味わえるよう支援し、本人負担費用の削減に繋げている。夜間もポータブルトイレ使用者はなく、トイレでの排泄が習慣となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10時にヨーグルトの提供を行っている。1日1500ccの水分補給と、繊維質が多いといわれているバナナを提供。散歩やリハビリ体操で自然排便になるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	朝から夕方までお好きな時間に入って頂けるようにしている。	入浴は週2回を基本としている。安全性に配慮した浴室には、リラックス効果もある信楽焼の浴槽があり、利用者は好きな時間に温泉気分を味わいながら入浴している。利用者の状態によっては、清拭やシャワー浴、職員2人対応での入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・就寝はご本人様のペースに合わせて支援している。日中は楽しく穏やかに過ごして頂き、夜間は安んじて良民されるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助は介助者が間違いの内容日付け、名前をお呼びして服用まで見届け確認印を押している。取り出し表を作り、責任をもって持ち出した事に印で示している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物・園芸・カラオケ・音楽等、利用者の希望の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩・ドライブ・又行事にて外出を行っている。 広告・催し物などを見てゲストと「買いにいこうか」「見に行こうか」と話し出かけている。	日常は、事業所の庭や近隣を散歩している。個々の希望を聴きながら、図書館や買い物、喫茶店などにも出かけている。年間行事では、花見や紅葉狩り、初詣などに出かけている。家族と共に、外食や日帰り旅行に出かける利用者もある。	

岐阜県 グループホーム長森いきいき倶楽部

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ゲストの金銭については、入居時、御家族に説明し、同意書を取得した上で管理している。外出時にはゲストそれぞれの希望に沿った買い物をし、自身でお金を払えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望されれば事務所にて電話をかけて頂いている。手紙やハガキのやりとりも行う。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先や見栄えのする所に季節がわかる、共同作の貼り絵を飾っている。生花教室の月2回実施や展示物で季節感を取り入れている。中庭は季節を楽しめる花を植える等、整備し、居心地のよい空間となるよう、心がけている。	玄関や居間には、クリスマスツリーや生け花、習字や季節の共同作品を飾っている。和室続きの共用の間には、テレビやゆったりとしたソファ、一人用の椅子も設置し、利用者が好きな場所で新聞や雑誌を読むなど、ゆっくりと寛げるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室・居間で自由に過ごせるよう支援を行っている。ゲスト同士がお互いの居室で談笑したり、居間の一人掛けソファで新聞を読み、くつろいでいる姿が日常的に見られる。和室では正座やあぐらをかいて過ごされている様子がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口には家族へ依頼し、本人様の馴染みの物を設置していただき、居心地のいい環境作りに努めている。	居室は、和室と洋室があり、洗面台とクローゼットが設置されている。ベッドを持ち込む人もあり、家具類と共に使いやすいよう配置している。家族の写真や手作り作品などを飾り、整理整頓をしながら自分らしく落ち着いて過ごせる工夫がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所にはわかりやすく掲示し、筆筒などは整理しやすいように引き出し毎に名前をつけるなどして、ゲストの方ができるだけ自立した生活を送れるよう支援している。		